

■大和工業グループ CSR 中期計画

重要テーマ	項目	対応するSDGs	自社のリスク／機会	目指す姿	2025年度 中期目標 ※注1	2021年度 短期アクション ※注1
E 環境	気候変動	13 気候変動に具体的な対策を 7 気候変動や自然災害へのレジリエントな社会づくり 9 産業と資源効率の改善を通じた持続可能な生産と消費	<機会> ・ CO2 排出量が税や価格等に反映されるようになった場合、高炉製品と比較して製造段階における CO2 排出量が少ない電炉製品に競争優位性が生じる <リスク> ・ 原材料、電力等エネルギー、水等のコストが上昇、または供給が不安定になる可能性がある ・ カーボンプライシングなどに伴い燃料価格が高騰し、コストが上昇する可能性がある	カーボンニュートラルな社会を見据え、省エネルギーを促進し、可能なセクターでは再生可能エネルギーを活用する	・ 2025 年度までに、気候変動に伴う移行リスク、物理的リスクによる財務的影響を開示する ・ CO2 排出量を 38%削減する（2013 年度比）※注 2 ※注 3 ・ CO2 排出原単位を 20%削減する（2013 年度比）※注 2 ・ 2025 年度までに、再生可能エネルギーを一部の事業部門に導入する	・ 政策と法的リスク、テクノロジーリスク、市場リスク、急性的リスクを洗い出し、将来事業に影響を与える要素を選定する ・ ISO14001 に基づき各部門での省エネルギーに関わる草の根活動の活性化および具体的管理目標として織込む ・ エネルギー効率の最適化を考慮した、戦略的大型設備投資によるエネルギー使用量の削減および導入効果の詳細を検討する ・ 同上
	資源循環	12 持続可能な消費と生産 9 産業と資源効率の改善を通じた持続可能な生産と消費	<機会> ・ 電炉は鉄スクラップを原材料として鉄を作っていることから、リサイクルや資源の循環利用を社会に対し訴求することができ、競争優位に繋がる ・ 廃棄物再利用率の向上により、より高い資源循環を実現することができる <リスク> ・ 廃棄物の販売先減少により廃棄物の再利用ができなくなった場合、リサイクル率が低下する	鉄スクラップの高度な循環利用を促進するエコシステムの拡大によりサーキュラーエコノミーを実践し、サステナブルな社会の実現に貢献する	・ 一般廃棄物のゼロエミッションへ挑戦する ・ 産業廃棄物のリサイクル率を 5% 向上させる	・ 廃棄物を分別する仕組みを構築する ・ 産業廃棄物の利用用途拡大による有価物化（※注 4）を進め、リサイクル率向上に向けた具体的活動を考案する ・ ペーパーレス企業としての取組みを促進する
	環境配慮型商品	12 持続可能な消費と生産 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナーシップで目標を達成しよう	<機会> ・ CO2 排出量が税や価格等に反映されるようになった場合、競争優位性となる（施主が CO2 排出量が少なく、低価格な電炉製品を選択するようになる）	社会全体の CO2 排出量削減、環境負荷低減に寄与する製品・技術を開発する	・ 環境認証製品の普及促進により、CO2 排出量の少ない製品を供給することで社会全体の CO2 排出量削減に貢献する	・ 製造仕様の拡大可能性を検討する ・ 環境認証（※注 5）の認知度向上のための営業活動を実施する ・ 環境に配慮した製品開発を促進する
	製品品質	3 持続可能なエネルギー 12 持続可能な消費と生産 17 パートナーシップで目標を達成しよう	<リスク> ・ 商品にトラブルが発生した場合、大きな影響が出る ・ 外注業者における納期遅延、品質問題が発生した場合、レピュテーションリスクにつながる懸念がある <機会> ・ 顧客満足度を高めることで当社製品を選んでもらえる可能性が高くなる <リスク> ・ 必要に応じ顧客に対する情報開示を実施しているが、広く社会に認識されていないことにより機会損失やレピュテーションリスクが発生する懸念がある	鉄鋼・重工・軌道用品事業を通じ社会インフラを支える責任を自覚し安全・安心で高品質・高付加価値な製品・サービスの提供を何よりも優先する	・ クレーム件数を 25%改善する（2020 年度比） ・ 鉄道・船舶輸送の一翼を担う企業として品質管理を徹底し、重大有事故ゼロを継続する	・ クレーム件数を 5%改善する（前年度比）
S 社会	顧客への情報開示／コミュニケーション強化	17 パートナーシップで目標を達成しよう	<機会> ・ 顧客満足度を高めることで当社製品を選んでもらえる可能性が高くなる <リスク> ・ 必要に応じ顧客に対する情報開示を実施しているが、広く社会に認識されていないことにより機会損失やレピュテーションリスクが発生する懸念がある	お客様、そして社会の声を聞き、新しい価値の提案や継続的改善を行う	・ 利害関係者からのニーズと期待を明確にし、顧客満足度向上を図る	・ 顧客満足度調査における品質項目を 5%改善する（前年度比）
	人材育成	10 人や国の不平等をなくそう 8 豊かでない国を豊かにしよう	<機会> ・ 多様なプロフェッショナル人材を起用することにより、高付加価値な製品・サービスを創出することができる <リスク> ・ 事業拡大に伴い人員不足に陥る懸念がある ・ 優秀な人材の獲得競争が激化する	CSR や ESG に取り組むことで社員のロイヤリティを高め、企業理念（Mission, Vision, Yamato SPIRIT）の実践に不可欠な最先端の技術力や柔軟な企画力などを備えた多様なプロフェッショナル人材がグループ全体で循環し、グローバルに活躍できる企業となる	・ グループ間の人材交流に加え、グループを横断しての配置転換やキャリアパスにより、グローバル人材の育成を促進する ・ 最先端設備の導入や操業経験で培った鉄づくりの技術をグローバルに展開し、グループ全体の技術力向上・DX 推進を図る	・ 多様なプロフェッショナル人材の育成に向けて人事制度・教育体制を整備する ・ 人材戦略の構築・実行のための積極的な人材投入及びキャリア採用により組織を強化する ・ 海外拠点との人材交流・技術研修の強化及び国内での最先端設備導入・DX 推進プロジェクトへの参画により若手社員の教育機会を創出し育成する
G ガバナンス	企業経営の基盤	16 平和と公正な社会を築こう	<機会> ・ コーポレートガバナンスの改善に継続的に取り組むことで、柔軟かつ強靱な経営基盤を構築することができる ・ 企業理念（Mission, Vision, Yamato SPIRIT）を浸透させることがガバナンス意識を醸成し、エンゲージメントやパフォーマンス向上につながる <リスク> ・ ガバナンス意識の欠如や違反により社会や取引先から信用を失う懸念がある	社会に信頼される企業であり続けるとともに、コーポレートガバナンスを強化し、気候変動等の大きな環境変化に対して柔軟かつ強靱（レジリエント）に対応できるサステナブルな企業を目指す	・ コーポレートガバナンス改革を継続的に実行する ・ 企業理念をグループ全体に浸透させる ・ グループ全体の CSR 経営体制を構築する	・ 取締役会実効性評価の結果を踏まえ、計画を立案・実行する ・ 企業理念を自部署ならびに個人目標へ落とし込む ・ 国内外グループ会社に CSR 担当者を設置する
	コンプライアンス		<リスク> ・ グローバルな事業展開に伴い、法令順守はもとより、倫理的な問題への対応如何によって、操業停止やブランドなどを大きく毀損する懸念がある ・ コンプライアンス意識の欠如や違反により社会や取引先から信用を失う懸念がある		・ 重大な法令違反の発生無し	・ 国内外グループ会社にコンプライアンスセミナーを実施する ・ 階層別研修・新入社員研修における教育の強化

※注 1：特段の記載が無い限り、大和工業グループにとって最も影響の大きい鉄鋼事業を対象とした記載となります

※注 2：日本政府削減目標に従い 2013 年度を基準年としています

※注 3：電炉は事業の特性上、大量の電力を使用することから、電力会社の電源割合の変動による影響を大きく受けます

※注 4：路盤材、コンクリート用細骨材（JIS認証品）

※注 5：エコリーフ環境ラベルおよびカーボンフットプリント認証